

サメズグサの正体

山田幸男*

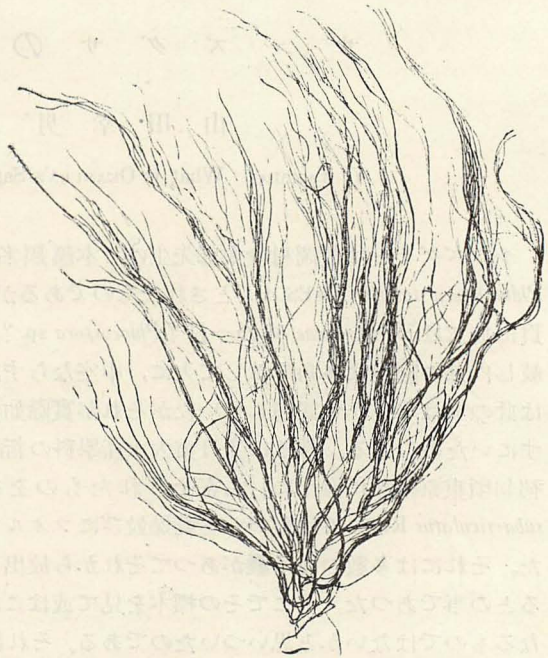
Y. YAMADA: What is OKAMURA'S Samezu-gusa?

サメズグサとは故岡村金太郎先生の日本藻類名彙第1版(1902)120頁で *Phloeospora tortilis* ARESCH. とされたものであるが其後その第2版(1916)154頁に於ては *Striariaceae* 中の一員? *Phloeospora* sp.? とされ“体は糸状, 密に分岐し内部の細胞は多角形にして大に, 中空ならず, 武州鮫洲”とある。筆者は此の名は早くから記憶していたがそれが實際如何なる植物であるかを知らずにいたのである。然るに先日東大水産学科の新崎盛敏博士から同氏が2月初旬頃東京都深川海岸に打ち寄せられたものを採集され多分 *Stictyosiphon subarticulatus* RKE. ではないかと乾燥竝びにフォルマリン漬の標本を送附された。それには多数の複子嚢があつてそれから放出された游走子を培養中であるとの事であつた。そこでその標本を見て或はこれが岡村先生のサメズグサなるものではないかと思いついたのである。それは先生が *Phloeospora* に當てられる事と採集地が鮫洲と深川であるからである。そこで早速手許にある先生の残された標本を調べたが見當らない。上にあげた名彙中でも屬名の前にも種名の後にも? がつけてある位であるから不完全な標本を見られたに過ぎなくてそれも保存される程のものではなかつたのかもしれない。兎に角 *Phloeospora* と *Stictyosiphon*. と又下に述べる *Kjellmania* とは非常に近いものであるから先生が *Stictyosiphon* の不完全なものを見られて? *Phloeospora*? とされたかもしれない事はありうる事である。

そこで今新崎博士の採集されたものが如何なる種類であろうかというに同氏の申し越された如く *Stictyosiphon subarticulatus* REINKE に甚だ好く似ている。然し之と同定する事は出来ないとされる點がある。そこで今迄に記載された *Stictyosiphon* 屬の種類を見ると先ず此の屬は KUETZING により *Phycologia generalis* (1843) p. 301 に於て初めて *S. adriaticus* KG. 1種が記載され Taf. 21 には圖も與えてある。更に 1856 には Tab. Phyc. Vol. 6, pl. 50, II に殆ど同

* 北海道大學理學部植物學教室

じ圖がのせてある。其後 HAUCK は Die Meeresalgen Deutschlands und Oesterreichs (1885) p. 375 に於て ARESCHOUG が 1873 Bot. Not. p. 132 に *Phloeospora subarticulatus* とした種を *Stictyosiphon* に移し *St. subarticulatus* (ARESCH.) HAUCK とした。そして REINKE は Algenflora der westlichen Ostsee (1889) p. 55 に於て之に賛成し同時に REINKE により他の1種即ち *St. tortilis* RKE. が加えられた。而して此の種は嘗て RUPRECHT により Tange des ochotischen Meeres (1851) p. 373 に於て *Scytosiphon*

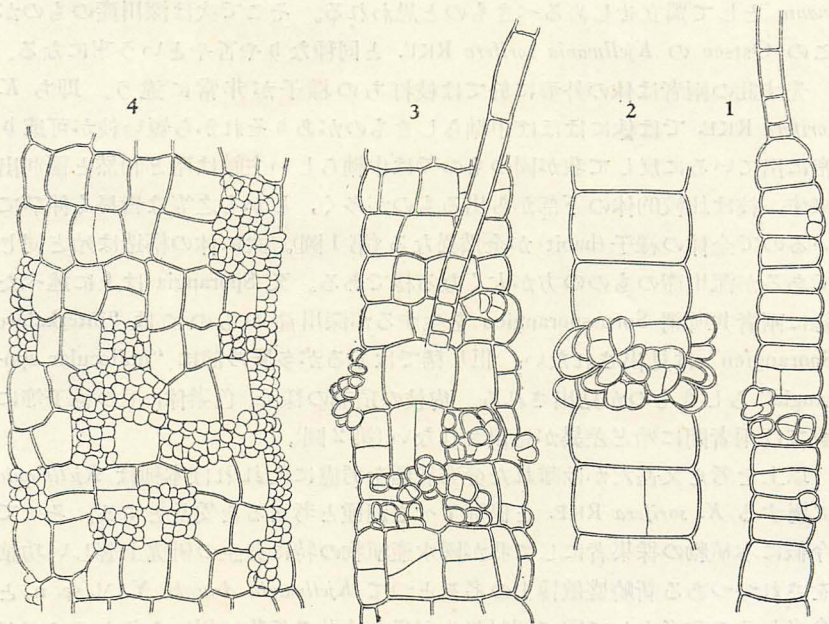


第1圖 サメズグサ

(*Kjellmania Arasaki* YAMADA) $\times \frac{1}{2}$

tortilis RUPR. とされ後 ARESCHOUG により Bot. Not., 1876, p. 34 に於て *Phloeospora tortilis* ARESCH. とされたものである。REINKE は次いで 1892 Atlas deutscher Meeresalgen, 2. Heft, p. 47, Taf. 31-32 で *St. tortilis* を詳細に圖説した。而して ARESCHOUG の *Phloeospora* は *Stictyosiphon* の異名とされたのである。大分飛んで 1935 ROSENVINGE は On Some Danish Phaeophyceae, p. 3 に於て *St. tortilis* を詳細に研究し更に嘗て REINKE が 1889 Algenflora d. westl. Ostsee. p. 59 に於て設けた新屬新種 *Kjellmania sorifera* RKE. を *Stictyosiphon* に移して *St. soriferus* (REINKE) ROSENV. とし同時に *Kjellmania striarioides* GRAN; *Stictyosiphon adriaticus* COTTON; *St. Corbierei* SAUV. は何れも *St. soriferus* ROSENV. と同じものであるとした。然し 1937 に LEVRING は Zur Kenntnis der Algenflora der norwegischen Westküste p. 72 に於て *Kjellmania striarioides* GRAN 及び *Stictyosiphon adriaticus* COTTON は *St. subarticulatus*

(ARESCH.) RKE. とは同物であるが *Kjellm. sorifera* RKE. とは別物であるとしており KYLIN も同意見である (Die Phaeophyceen der schwedischen Westküste, 1947, p. 68)。又 HYGÉN & YORDE は *Phaeospora brachiata* (HARV.) BORNET (= *Ectocarpus brachiatus* HARV.) を *Stictyosiphon* に移した。尙アメリカに於ては HOLDEN が “*Rhodola* Vol. 1, 1899, p. 198, pl. 9, figs. a-f” に於て *St. subsimplex* HOLDEN を記載し又, *Phycotheca* Bor.-Amer. no. 630 として頒布している。そこで *Stictyosiphon* 属には 1. *St. adriaticus* KG. (Type!) 2. *St. subarticulatus* (ARESCH.) RKE. 3. *St. tortilis* (RUPR.) RKE. 4. *St. brachiatus* (HARV.) HYGÉN et YORDE 5. *St. subsimplex* HOLDEN の 5 種が存することになる。翻つて我が國に於ては上記の岡村先生のサメズグサが *Phloeospora* sp. として報ぜられた以外には 1941, 時田, 近江兩氏によつて樺太遠淵湖から *St.*



第2圖 サメズグサ (*Kjelmania Arasakii* YAMADA)

1. 体の先端附近 2-4, それより下部, 何れも單子嚢を生じた所 1. 3. $\times 300$,
2. $\times 510$, 4. $\times 260$

tortilis RKE. が報ぜられ (植物及び動物. 9巻 p. 429) ハバノヒモなる和名が與えられた。

そこで今元に戻つて新崎博士採集の深川産の標本を検すると上述の *Stictyosiphon* の各種と著しく異なる點はその複子嚢で、此等の種に於ては各子嚢は体の表面上に突出するもの及び然らざるものがあるが之等の輪廓は大體球形をして平滑である。然るに深川産のものでは各 *loculus* に相當する部が突出している。その様子は REINKE の Atlas deutscher Meeresalgen にある *Kjellmania sorifera* RKE. の所謂 “Sorussporangien” というに一致する。然し ROSENVINGE は此の Sporangien の區別を重視せず *Kjellmania sorifera* RKE. を *Stictyosiphon* に移したのである。然し今此の深川産のものを見ると此の ROSENVINGE の考えは無理の様で反て LEVRING や KYLIN の云う如く *Kjellmania sorifera* RKE. というものは *Stictyosiphon* の各種とは區別して別屬、即ち *Kjellmania* として獨立せしめるべきものと思われる。そこで次は深川産のものがこの Ostsee の *Kjellmania sorifera* RKE. と同種なりや否やという事になる。

先ず此の両者は体の外形に於ては枝打ちの様子が非常に違う。即ち *K. sorifera* RKE. では体にはほぼ中軸らしきものがありそれから短い枝が可成り密に出ているに反して我が國のものでは中軸らしい主軸は殆ど判然と區別出來ず、枝は比較的体の下部から出るものが多く、しかも之等は皆長く伸びているので全体の様子 (*habit*) が全然異なる (第1圖)。次に体の構造は殆ど同じであるが深川産のものの方が太くなる様である。又 Sporangia は上に述べた様に兩者共所謂 Sorussporangien を生ずるが深川産のものには “interkalare Sporangien” は見出されない。但し稀ではあるが多層の部に “unilocular sporangia” らしきものが見出される。尙枝の頂端の様子、色素体、毛の様子等に就ては兩者間に殆ど差異が見出されない (第2圖)。

以上を考へ又甚だかけ離れた分布状態を考慮に入れれば本種は *Kjellmania* に屬する *K. sorifera* RKE. と區別すべき別種と考へるを妥當とする。そこで今假に本植物の採集者にして我が國水産植物の特に發生の研究上著しい功獻をされつつある新崎盛敏博士の名をとつて *Kjellmania Arasakii* YAM. sp. n. と命名しその和名として嘗て岡村先生が恐らく此の植物に用いられたサメズグサを使用し度いと思う。尙此の正式の記文は近く改めて發表の豫定である。